

## 愛媛県神道青年会々報

第3号

昭和51年1月1日

発行  
松山市道後  
千790 桜谷町173  
愛媛県神道青年会  
愛媛県神道青年会  
0899-21-9875

## 西欧文化への疑心

三輪田 元 亮

神社には色々な人がやって来る。真剣に参拝する人はもちろんであるが、恋を語る若者、しばしの休息を求めて来るお年寄、その他なんとなくやって来る観光の人たち、時には空サイフ、バック等も落ちて、るので泥棒の類も来ているのかもしれない。とにかく時とともに参拝者も多くなったが、その中味も変わってきているのは事実である。

戦後西欧の文化が急速に入ってきて、当然ながら日本人のモノの見方、考え方、或は表現の仕方まで変わってきている。私どもが思っていた奥床しさとか、恥らひとかといった気質が次第にみられなくな

った。最近の人たちは率直に自己を主張し、権利を押しつけてくる。ある意味では思った事、感じた事を直に言える事は良いことであるが、自分の立場が中心で相手の立場や気持を無視した言動が多いと言うことである。テレビや新聞を見ても、実に自分勝手な理由による事件が目立つ、先日も中年の男が神社に来て自分の浮気がうまくいくように祈願をして欲しいと言う、全く怪しからぬ事で、我々はその幸せこそ祈れ、奥さんが不幸になるような祈願は断る旨伝えるとき、自分が祈願を頼み、幸せになるのだからと言う、実に不快な話してあるが、世間にはこれに似

た事は沢山あると思ふ。各種の集會や討論会をはじめ自分たちの生活している周囲には色々あると思う。自分の主張のみに走って相手方はどうでもよい……言わせてもらうだけとは言わせてもらいますといった、いわゆる無責任な人が多いと言ふことである。

世界中は今や戦々恐々の体であるが、西欧文化の行き詰りであると言つてもよいと思う。戦後西欧の文化の導入により教育面では合理的、科学的に押し進められ、その結果として今や産業経済の著しい進展と繁栄を生み出したものの、憂うべき弊害も決して少なくない。敗戦によって昔の事は否定され、その時まで日本民族が培ってきた心(精神)を根底から覆されてしまった。戦後の未曾有の繁栄もその基盤となる心を失っていて何んで真の平和と繁栄があるだろうか、まるで歳末大売出しの商店街のようなもので相互に欲がうづ巻いている。

共産主義も嫌いだが民主主義と言ふ言葉も人を誤らせるので私はあまり好きではない、とかく何々主義などと言ふのは客観的に言えることで、やはり各々の園が独自

な民族宗教をもち、自から国民性をかもしだすものだと思う。

今や種々の弊害により各神社は窮地に追われている。戦前の国家神道時から神社の分布或は氏子制(信者として)の再確認、又は再編成の準備期間もなくして、宗教法人として出発したことにも現在神社界の行き詰りがあるとも思える。各々の神社の繁栄、神道の隆昌なくしては日本は救われず、世界の平和はないと信じる。

それは神道のもつ感謝の精神につきると思う、もの事に感謝することによって、謙虚な気持、労わりの気持を生みだすと信ずる所以であり、そこに自ら平和があると思うからである。

斯く言う私自身、今だ理想にほど遠く反省をすると共に真の氏子拡めに努力する覚悟をしている。そうしなければお守り売に過ぎず情けなく思うからである。

(宇和島市 和豊神社宮司)



# 神社及び神職に関する調査を担当するに当たって

調査委員長 星野暢廣

調査委員長として、これからなさんとする調査に対する抱負をこの誌面で述べてより早くも一年以上経過した。本年の春に実施の目標で準備中である。

この調査の必要性——活動に調査が先行して、有効適切な判断と行動が出来る事は言を待たない。我々神職は改めて「調査」等と呼ばなくとも、神社の管理運営や教化等について常に情報を收拾して、意識しないうちに調査をして

いる。また少し熱心に注意していると、まだまだ多くの関連情報が雑多に入ってくる。これは我々の行動の為の状況判断の基となっている。しかし県下という広い地域になって来ると、こうした方法での調査では地域的にも又、ルートの上からも限られて来てどうしても主観的になってしまふ。

今少し神社界の活動を強力に且系統的効果的に推進して行こうとすると、一定条件下に調査された資料が必要となって来る。

又、各人各様の主観的な状況判

断では、理解範囲が遠いすぎて共同の作業も難しい。

神社は個々に個別の御祭神を奉斎し個別の御神徳を持ち、法律上は個別の宗教法人であり根本的にそれぞれ異なる一面を持っている。

キリスト教や教派神道等と異なる所で、神社庁はこうした神社の連合体としての性格を持っている。統一的な活動の出来にくい所以であろうかと考える。

この事は近年特に本庁が力を入れてきている教化についての活動を実施する時に如実に現れて来る。しかし他面では神社は国家と切離す事の出来ない統合的な性格を持っている。神社庁、神社本庁が設置された所以であろう。

我々神職は各神社の持つ個別的な立場の障害にいつまでもわずらわされてはいけけない。神社の共通性と個性をふまえた上で種々の方向から共同の作業をしてゆき県下全般の神社の発展を計らねばならないと考える。そうした糸口を(め)にも、県下の神社が

どんな状況で、神職がどんな考えを持ち、総代がどうなのか等といった事を調査出来ればと考えている。

企画している調査の概要——

(1) 神社の調査

(2) 神職の調査、(a) 記名調査 (b) 無記名調査。調査回答は包隠しの無いものでないと正確性が失われてそのデータは死んだものとなる。又高回答率が得られないと信頼性が低下する。そう言う意味から神職の調査を無記名回答として嚴重に管理し、神社調査もこれに準じて管理し神社名をあげての公開を原則としてなせず、あくまで県下神社界のデータとして公開して行く予定である。

神職に関する記名調査では、連絡網整備の為の調査、神職家族、神職家(社家)各氏の持つ専門的知識や特技等能力、その他で、無記名調査では、神職、兼職神職、神社からの収入、後継者問題、資格問題、教化、教養、県下神職界の諸事項、神社の将来その他について行う。

神社調査では、組織、氏子、維持運営、祭祀、管理、教化信仰、その他についてである。回答は○印記入式を主として、各氏の御意見やら体験等を御記入(め)方法の

予定である。

この調査は設問をしばっても膨大なものとなり、資金面や、県下神職各位の回答の御協力がどの程度得られるかの見通し等によって、どの範囲の実施となるか目下判断出来ない。

私はこの調査を企画してから多くの方々に参加の意見を求めてお話しをうかがって来たが、各氏かなり違った実情認識をしていらつしやる様であり又、立場の違い等もかなりある様であり、互に神職同志がもつと話し合い煮つめ合っで行かねばと感じ、この調査の必要性を更に感じた。

調査について各氏の御理解と御協力のお願——既に御理解いたされたと存じますが、この調査は単に神道青年会の活動の為のみのものでなく、広く県下の神社界の活動の為のナマの資料となる事を目的としています。

どうか明日の神社の為に、明日の我々の為に、御理解を賜り、少々複雑なものとはなりますが御協力を賜りたく存する次第です。特に青年会以外の神職各位に御理解と御協力を賜る様青年会員各位の御口添をお願いいたしたく存じます。(伊予市・稲荷神社権禰宣)

# 東予ブロック研修会に思う

越智 静 治

「伊予の人間が歩けば草も生えん」こういった言葉のある月賦販売商人の多数の成功者が出た地、今治市内より南へ五キロ、細敷天満宮にて東予ブロックの初顔合せの親睦会、言わば飲会を十一月九日行なった。

沼崎氏の発起で女性の高橋さんを含む十二名が参加し、沼崎氏が座長となり、正式参拝の後、会に入った。和田会長、十亀副会長の活動経過報告、連絡事項等があり、後継者問題で、資格取得などが討議された。その後懇親会となり、意気投合した意義深い第一回ブロック研修会となった。

宮司死亡の社家で後任宮司の資格取得に一ヶ月講習を二回、その後、別表神社に一ヶ月実習を要し、兼職の場合三ヶ月もぬけると言う事は、当の私も一ヶ月実習こそなかったが容易なことではない。

しかし、神職の質低下と言うことでは、二、三ヶ月の研修のみではとうてい修得出来得ない。生れな

がらにお饅米を喰い、太鼓の音を耳にした社家であれば肌で神道を認識していると思ふ。問題なのは、ホテル等の都会で見られる結婚式のみ神主である。ひどいのは、退職者の再就職口とされている。友人の話では、ホテル従業員が直階資格を取りやっているとの事、実に憤慨だ。質低下には、神社庁の資格の安売りも原因しているのではなからうか。切実に困っている零細神社の後継者に通信教育等仮免許的な道を開いてはと残念に思う。

又話の中で過疎過密と神社運営のあり方があった。県下の神社は大半が氏神信仰からなる零細な神社である。資本主義社会の中で大企業が栄えるように、戦後神社界も氏神信仰から大きな神社へと移り変つて来た。

「神職は貧職なり」勿論零細神社は、その努力を怠っていると云つても過言ではない。県下六社ある別表神社は、どこを見てもその

名にふさわしい、それぞれ他社に見られない独特な崇敬者を持ち、立派に神社活動をし、使命をなし、大社の風格を備えている。現今では、近郊神社においてはどこを見渡しても別表神社とは格段のへだたりがあり、信仰形態には、周辺のみならず他県にまで及び歴史的意義があり、先駆者の努力をたえてやまない。



東予ブロック会参加者一同

人として生きる者に対しての愛の手をなさと、神社は単立していて総代の良し悪しで将来が左右され、上層の指導がほしいと思つた事はなかつた。

神社界には他宗教、他企業に比べ、厳しさ、相互間の連絡、情報提供、研修等活気がなく神社そのものが衰退し、孤立化している。小さな神社と言えども神主が互につながりを密にし相互に助け合いより活動を興し、互に切磋琢磨を興し、共に手をたづさえて他に恥じないよう尚一層の努力が必要だと思ふ。

新興宗教が栄えるのもそういったことが原因で、日本古来の偉大な神道の弱さを物語っているのではなからうか……やるせない、若いからこそ失敗も許され、やり直しもきき、やり甲斐もあると思ふ。志しを同じくした同志として、お互青年会を通じ、精神の高揚に神社の発展に努力されることを祈つてやまない。

神社界にも再建の時が来たように思う。

社人として本当に必要なのは、共存共栄ではなからうか。

(今治市・三島神社宮司)

私事で恐縮だが、学生時代父が病死し、ようやく十年となる。当時祝詞の読み方すらわからない皆無の中で、どうか今日も何もなければ良いのと思つた不安な日々も今では遠い過去のよう思えるが、その当時痛感した事は、一部の暖かい助言等で勇気づけられたが神社界ほど自己中心主義で神社

# 新春にあたりて

愛媛県神道青年会会長 和田 将信

新年あけまして

おめでとうございます。

まずもって皇室の彌栄と国家の安泰を皆様と共に祈りいたします。本会の運営も会員諸兄の御尽力により順調に推進し、諸活動においても計画に基き展開し実践しつつあることは、偏に皆様方の御協力賜と深く感謝致しております。さて、何時の時代でも時局の重

大さが言われぬ事はありませんが、世界は今大きな転換期に直面しており、新しい価値観がもたられております。特に不況の為に使い捨文明は終り、公害の為に自然をもとめるといふように、人間の精神の回復と自然への回帰が問われており、神道の考えに關心が深まりつつあるように思われます。しかし、一面では革命勢力の策動

はいよいよ激しく、このまま放置できない危機にあることも事実であります。

これに対処するためには時局について正しい認識をもって団結し行動することであり我々はその先兵とならなければならぬと考えます。

今年も本会のもつ連帯意識を認識して、諸事業に活発に参画していただくよう御協力をお願い致します。と共に神社人として青年神職として、その使命感をもって世の為人の爲且つ神社奉護の爲御活躍されん事を念じて新年の御挨拶といたします。(山城神社 宮司)

## 足跡

- ▲八月二・三日四国ブロック研修会(高松)
- ▲八月三十日役員会
- ▲九月七日第四回総回(八幡浜)
- ▲九月十四日愛媛県神社関係者大会に十七名奉仕
- ▲九月二十七日南予ブロック会(大洲)
- ▲十月各地秋祭助務奉仕
- ▲十一月九日東予ブロック会(今治)
- ▲十一月十九日初詣ポスター発送併役員会

## 編集後記

謹んで新春のお慶びを申し上げます。茲に会報No.3をお届け致します。

神青会員諸兄には御多忙の中に越年された事と存じます。会長挨拶の中にも述べられておりますが「連帯意識を認識して、諸事業に活発に参画」され本県神青会の活動を盛り上げて行くうではありませぬか。本春実施予定の調査も着々と準備が進行の由、活動の基礎となる「調査」に是非共強力なる御協力をお願いします。

本会活動に対し御助成下さいました各位に紙上より改めて御礼申し上げます。

## 寄附・助成者芳名

昭和四十九年度

☆一金五万円也	西条市 石鎚神社	今治市 別府 寿昭	上浮穴郡 辻田 正明
☆一金壹万円也	越智郡 大山祇神社	越智郡 馬越 鶴敏	伊予市 伊予稲荷神社
越智郡 喜多郡	平田 茂光	☆一金四千五百円也	神社庁大三島支部
八幡浜市 清家 貞雄	☆一金参千円也	神社庁宇和海支部	東予市 松木 達雄
伊予市 星野 満廣	西条市 杉尾 神社	同 同	喜多郡 菅原 勤
☆一金七千円也	同 同	同 同	東宇和郡 進藤 司朗
伊予市 同	同 同	同 同	同 同
☆一金五千円也	新居浜市 合田 正良	今治市 越智 静治	☆一金壹千円也
			東宇和郡 井関五十鈴

(順不同敬称略)